

「応援します！！あなたの農業」



# めぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 63 号 令和2年12月

福島市中町8番2号  
発行元 公益財団法人福島県農業振興公社  
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

## 「ふくしま農業人フェア」が開催されました ～福島県全域の就農イベント～



就農支援センターのブースの様子

11月15日（日）に福島県主催の就農相談イベント「ふくしま農業人フェア」が、郡山市のビックパレットふくしまにて開催されました。

ふくしま農業人フェアは、これからの福島県農業を支える多様な担い手を確保することを目的に令和元年から開催されているイベントで、県内の市町村や農業法人、農業関係団体など合計40団体が相談ブースを出展し、就農支援制度や雇用情報等の新規就農に関する様々な相談に対応した就農相談イベントです。

今年は新型コロナウイルス感染防止に配慮する中での開催となりましたが、全体で293名の方々が来場され、公社就農支援センターの相談ブースにも33名の方からのご相談をいただきました。

相談の内容としては「農業に興味はあるが、何から始めればいいのか分からない」といったものから、「企業の農業参入はどこに相談すればいいか」、「農福連携で雇用してもらえる所はないか」など、幅広い内容の相談をいただきました。

いただいた相談につきましては、各関係機関との連携を図りつつ、皆様の就農へ向けた取り組みをサポートしてまいります。

就農支援センターとしましては、今後も様々な就農相談イベントに積極的に参加し、将来の本県農業を担う皆様のお力となれるよう努力していきたいと考えております。

また、就農に関する相談は随時お受けしておりますので、農業に興味のある方はお気軽に就農支援センターまでご相談ください。

## 農地中間管理事業の重点推進期間について

県と公社では共同で11月から翌年1月を「農地中間管理事業の重点推進期間」として農地バンク事業の推進を図っております。

11月30日には「令和2年度農地中間管理事業推進研修会及び人・農地プラン推進セミナー」を開催し、その中で元（公財）愛知県農業振興基金理事長に講演をいただき、事業の推進を図りました。

また、11月30日時点の農地中間管理事業活用状況は、前年同時期対比で借入面積が129%、転貸面積が108%となっております。今後とも重点推進期間を通して一層の活用の推進を行ってまいります。

### 農地中間管理事業の推進状況

(単位: ha)

	令和2年度	令和元年度	対比
借入	1,313	1,019	129%
転貸	1,881	1,734	108%

## 福島復興再生特別措置法の改正について

復興・創生期間後（令和3年度以降）の復興を支える仕組みとして、被災12市町村の営農再開の加速化を図るため、令和2年6月12日福島復興再生特別措置法が一部改正されました。

農地中間管理事業に係る改正内容としては、農用地利用集積計画が県も作成可能となりました。

新たな仕組みは令和3年4月1日より施行されます。対象範囲は南相馬市の一部、飯舘村、浪江町、葛尾村、富岡町、大熊町、双葉町、楡葉町、川内村、広野町、川俣町の一部、田村市の一部の12市町村となっています。公社としても、今後はこれらの地域において加速度的な営農再開を支援していく予定です。



貸したい! 農地の貸借については 借りたい!

# 福島県農地バンクまで!

農地の貸したい、借りたいをお手伝いします。

詳しくは 公益財団法人 福島県農業振興公社(福島県農地バンク)  
〒960-8681 福島県福島市中町8番2号  
☎024-521-9845(中通り・会津担当) ☎024-521-9843(浜通り担当)

<http://www.fnk.or.jp>  
携帯・スマートフォンはこちら▶

または、農地の所在がある各市町村  
農政担当課・各JAまでご相談ください。

## 若手農業者のお悩み解決！ ～スキルアップセミナーを開催～

10月29日（木）、午後7時30分から2時間、「令和2年度青年農業者等スキルアップセミナー」をオンライン形式で開催しました。

今回のセミナーは「農業お悩み解決セミナー～今日から始める経営改善～」と題して、若手農業者の皆さんが日頃抱えている農業経営の課題解決を図りました。

講師に「東大卒、農家の右腕になる」の著者、佐川友彦氏をお招きし、これまでの経営改善の取組や成果を紹介いただくとともに、農業者であれば誰でも経験する課題をどう解決してきたのかを、わかりやすく解説していただきました。

また、セミナーでは課題解決のワークショップや経営相談タイムを設け、すぐ実践できる課題解決の手法を学び、明日からの経営に役立つヒントが充実した内容となりました。

参加者からは「自分の課題解決のスタート地点が見えた」、「同じように福島で農業している方と交流できて励みになった」などといった声が聞かれました。

当センターでは、今後も若手農業者の皆さんの農業経営に役立つセミナーを企画していきたいと考えております。「こういうセミナーに参加したい！」などのご意見がございましたら、ぜひ当センターまでご連絡ください。

いま話題の本の著者 佐川氏から学ぶ！

### 農業お悩み解消セミナー ～今日から始める経営改善～

主催 福島県農業振興公社就農支援センター

「経営改善したくても、何から始めればいいのかからない」「相談できる人、悩みを共有できる人が周りにいない」そんな悩みをお持ちの農業者の皆さんに、ご自宅から受講できるオンラインセミナーのご案内です。講師は「東大卒、農家の右腕になる。」を出版したばかりの佐川友彦氏。農家の右腕として経営改善に体当たりしてきた佐川氏だからこそお話しできる、改善のコツを伝授します！

**開催概要** 2020年10月29日(木) 19:30～21:30 参加費無料/先着20名

申込み必須 オンライン会議ツール Zoomを使用します

**プログラム**

- “農家のための” 課題解決レクチャー  
阿部製菓（栃木）の経営改善の取り組みと成果などを紹介しつつ、農業者であればだれでも経験する課題をどう解決していくのかわかりやすく解説します。
- 経営改善のはじめの一歩！課題解決ワークショップ  
経営改善は小さなことから始める。まずどんな課題があるのかを整理しながら、すぐに実践できる改善を見つけていきましょう！
- 経営相談タイム  
農業界の改善のプロ、佐川氏に直接相談できます！  
「自分の農業はこんな問題があって…」 「こんなときはどうすればいい？」 など、今お困りのことをご相談ください。

**講師紹介** 佐川 友彦（フォームサイド株式会社 代表取締役/阿部製菓マネージャー）  
1984年生まれ。東京大学農学部、同修士卒。外資メーカーDuPont社の研究開発を経て、2014年9月より阿部製菓に参加。阿部製菓では代表阿部の右腕業を勤める。主に携わらず、農家が苦手とする経営管理、企画、経営会計、人事労務など、経営に関するすべての機能を担当。さらにマーケティングや広報、販売など営業面も担っている。小規模ながらスマート経営と、直営率99%超を達成した。阿部製菓の改善事例300件を公開するクラウドファンディングを実施し、300人以上から約400万円の支援を集めて前期を円満に。その成果はオンラインメディア「阿部製菓の知恵袋」農家の小さな改善事例300」として無料公開されている。その後、フォームサイド株式会社を起業。講演活動や経営コンサルティングで全国各地を回り、農家の経営体質改善を支援している。

主催：公益財団法人福島県農業振興公社  
協賛：マイナビ農業  
連絡先：024-821-6943（福島県農業振興公社就農支援センター 群馬 課）

## 地域マネージャー便り

福島県農地中間管理機構  
南会津推進拠点



地域マネージャー わたなべ よしたか  
渡部 与志高

令和2年4月から農地中間管理機構地域マネージャーとして、下郷町、只見町、南会津町を担当しております。推進拠点として南会津農林事務所に駐在し、農林事務所、町、農業委員会、土地改良区、JAと連携して、推進業務に取り組んでおります。

当管内の主な農産物は水稻、トマト、アス

パラガス、リンドウ、カスミソウであります。中でも「南郷トマト」は南会津ブランドの筆頭であり、その美味しさは全国の市場で高く評価されています。

当管内における令和2年度農地中間管理事業の重点地区は9地区あり、その内4地区が機構関連農地整備事業の採択申請を予定しています。事業の伸長に向け、担い手の育成・農用地の集団化率の向上は喫緊の課題であります。地域の農業をより良くするために、関係機関と連携して農地の出し手、受け手、それぞれの悩みの解決に取り組んでまいりたいと考えております。

今後ともご指導を宜しくお願い致します。

## 「目指すは千年農業」

会津若松市 株式会社ミフシファーム

代表取締役 ばんない かずひこ 坂内 和彦 (67歳)

会津平野のこの恵まれた大地で、途切れることなく農業をつないでいく。この思いで3戸の農家(専業)を統合して、今年3月に(株)ミフシファームを設立しました。

1+1+1が3ではなく、4にも5にもなるというのが私達の見論ですが、現実はなかなか厳しいということも初年度から感じています。当社のメンバー構成は、役員3名(60代)、社員3名(30~40代)、パート従業員5名の計11名です。社員3名は役員の子であり、パート従業員5名中3名は役員の妻ですから「身内による会社」との色合いは拭えません。

私達役員3名は大字三伏地区の同級生で、就農して40有余年ともに専業農家として励んできました。22年前には水稻部門を共同化し任意組合をつくり規模拡大を図ってきました。同時に一人はメロンを、一人はリンゴを、また一人は花卉栽培と複合経営に取り組んできました。甲斐あって、昨年まで耕作面積も50haを超え、それぞれが順調に所得を伸ばしてきたようです。

しかし一方で、これまでの家族による個別経営のままでは、いろんな意味で限界を迎えていることを感じていました。そろそろ無理のきかない年齢にもなってきたことや、何より病気や怪我人がでた時の補完機能のない経営に不安を感じていましたし、地元からの耕作依頼にも応える余力がなくなっていることにも多少なりとも心を痛めていました。



「何とかしたい」。そしてこれからも長く継続できる経営としたいとの思いで、足掛3年の話し合いを経て会社設立を決意しました。

まだ設立初年度で会社経営者としては全くの一年生で、財務管理や労務管理などは1からのスタートを余儀なくされていますし、11名の社員・従業員を無駄なく、無理なく、効率的に業務分担をする難しさに頭を痛めることもしばしばです。

当社の特徴は、米、メロン(夏・秋どり)、花卉(通年出荷)の3本柱と販売チャンネルの多様化でリスク分散を図っていることです。お陰で完全なオフシーズンこそありませんが、冬期間はまだ全員の給料を賄う程の収益はなく、パート従業員には休んでもらっています。

いつの日にか、地域から依頼されれば自信を持って引き受けられる体制を整えるとともに、地域の余った労働力も積極的に活用できるような会社になりたいとの夢を見ながら、今奮闘し始めたところです。

### 編集後記

歌は世につれ世は歌につれ。時代は歌を求め、歌が時代をつくるという。

歌といえば、その作る歌で昭和を励まし続けた福島出身の作曲家、古関裕而を主人公にした朝の連続ドラマが最終回を迎えた。

作曲数約5,000。彼が生きた昭和という時代を思えば、時代が彼の歌を求めたのだろう。

彼の功績の中に、自分の母校の校歌があるのを見つけた。思い出すのに少し時間がかかったが、十数年ぶりに口ずさんでみる。

きっと誰しもがそうだったのであろう、何かに熱中した青春時代が浮かんでくる。顔が赤くな

る思い出も少々。

歌い終わると、少し気分が晴れやかになるのを感じる。やはり歌はいい。なるほど、歌は世につれ世は歌につれ。

私に歌を作ることはできないけれど、鼻歌でも口ずさみながら、令和の時代を歩んでいきたい。(渡邊 純平)

お問い合わせ

あて先 〒960-8681

福島市中町8番2号 福島県自治会館8階  
公益財団法人福島県農業振興公社 総務企画課  
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277  
URL <http://www.fnk.or.jp>